

## 私のすすめるこの1冊

藤岡秀樹（教育学科 教授）

### 『学校心理学：教師・スクールカウンセラー・保護者の チームによる心理教育的援助サービス』

石隈利紀著

筑波大学教授・日本学校心理士会会長の石隈利紀教授の著作である『学校心理学』を紹介したいと思います。石隈氏は、日本人で初めてアメリカで学校心理学のトレーニングを受け、認知能力検査の K-ABC を開発したカウフマンに師事されました。知能検査 WISC-III と WISC-IV の日本版作成に関わり、本学の「特別支援教育 GP」の講演会の講師としても来学され、ご存じの教員の方も多と思います。

学校心理学の知名度は、日本ではまだ高くありませんが、アメリカでは、学校心理学を学んだスクールサイコロジスト（学校心理士）がスクールカウンセラーとして活躍しています。臨床サイコロジスト（臨床心理士）は、日本とは異なり、学校教育には関与しないのが特徴です。

では、本書の章立てと概要を紹介してみましよう。石隈氏のスクールカウンセラーの体験や日本の学校心理士の活動がトピックとして挿入されています。

- 第1章 新しい学校教育サービスをめざして
- 第2章 アメリカにおける学校心理学  
ースクールサイコロジストの実践体系
- 第3章 日本における学校心理学  
ー心理教育的援助サービスの体系
- 第4章 心理教育的援助サービスの基礎概念
- 第5章 心理教育的援助を担う4種類のヘルパー
- 第6章 3段階の心理教育的援助サービス
- 第7章 スクールカウンセラーに求められる役割  
に関するニーズ調査から
- 第8章 心理教育的アセスメント  
ー心理教育的援助サービスの基盤として
- 第9章 カウンセリング  
ー児童生徒への直接的援助として
- 第10章 教師・保護者・学校組織へのコンサル

テーション ー児童生徒へのチーム援助として  
第11章 学校心理学の固有性と今後の課題

学校心理学は、臨床心理学やカウンセリング心理学とは異なり、子どもを1つの人格として見ると同時に、学校教育サービスの対象の児童生徒として見ます。援助ニーズに大きさに関わらず、全ての子どもを心理教育的援助サービスの対象としています。一次的援助サービスは、学習スキルや対人関係スキル、入学時の適応など全ての子どもを対象にし、二次的援助サービスは、登校渋りや学習意欲の低下が見られた時に、それ以上の悪化を防ぐための援助であり、三次的援助サービスは、不登校、いじめ、発達障害、非行などで苦戦し、特別な援助ニーズをもつ子どもへの援助サービスです。（第6章・第11章）

学校心理学の援助領域は、心理社会面に留まらず、学習面、進路面、健康面も対象とします。保健室や別室登校の子どもへのスクールカウンセラーや教師の支援は、学習支援や進路支援も必要であることは言うまでもないでしょう。

学校心理学では、チーム援助を中核に据えます。特別支援教育では、チーム援助が進められるようになりましたが、教育相談や生徒指導では十分とは言えない状況です。校内委員会にスクールカウンセラーも参加し、援助チーム会議を開催して支援策を作ることが大切です。（第9章・第10章）

文部科学省が2010年に刊行した『生徒指導提要』でも、学校心理学やチーム援助の記述が見られ、予防的・開発的教育相談が重視されています。学校心理学の合い言葉「みんなが資源、みんなが支援」を実践するには、本書は役立ちます。教師を希望する学生の皆さんが、本書を読まれることを願っています。

『学校心理学：教師・スクールカウンセラー・保護者の  
チームによる心理教育的援助サービス』

石隈利紀著 誠信書房, 1999年,

ISBN: 4414301491

配置場所: 開架南館1階 請求記号: 371.43 || 176

# 図書館からのお知らせ

## 重要

### 附属図書館の増築・改修に伴う臨時休館の変更について

附属図書館の増築・改修工事日程の変更に伴い、臨時休館日を変更いたします。

10月、2月に予定されていた臨時休館は取り止めとなり、代わりに以下の期間が臨時休館となりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

平成24年11月26日(月)～12月15日(土) [予定]

平成25年3月7日(木)～3月27日(水) [予定]

日程やサービス内容等が変更になることもありますので、最新の情報は必ず附属図書館ホームページや掲示物にて確認するようにしてください。

全集室の資料も  
対象になりました

### ・・・図書館増改修に伴う書庫内および全集室配置図書の長期貸出について・・・

附属図書館は増改修工事のため、平成24年9月1日(土)より書庫および全集室を閉鎖します。それに伴い、上記に配置されている資料は一部を除き利用できなくなります。つきましては、下記のとおり資料の特別長期貸出を行いますので、どうぞご利用ください。

対象者 ※1	大学院生	学部生
貸出冊数	100冊	50冊
対象資料	書庫内図書・書庫内大型図書・全集室 ※雑誌・書庫内貸出不可資料は除く	
貸出期間	平成24年6月4日(月)～平成24年8月31日(金) ※上記期間中の書庫内図書の貸出はすべて特別長期貸出となり、通常の貸出はできません	
返却期限日	平成25年3月11日(月) ※前期卒業・修了予定者は平成24年9月10日(月)となります。	
返却受付期間 ※2	① 平成24年6月4日(月)～平成24年8月28日(火) ② 平成25年1月21日(月)～	

#### ※1 対象者について

\* 大学院科目等履修生は大学院生、学部科目等履修生は学部生に準じます。

ただし、返却期限日は平成24年9月10日(月)となります。

\* 教員への貸出は研究室貸出となります。詳細は別途通知いたします。

#### ※2 返却受付期間について

\* 特別長期貸出図書は、上記の返却受付期間中のみ、返却を受付します。

\* 原則として返却受付期間以外の返却はできません。上記期間以外に返却された場合、工事期間終了まで利用できなくなる可能性があります。

・・・・・・夏季休業に伴う長期貸出について・・・・・・

下記のとおり長期貸出を行いますので、どうぞご利用ください。

対 象 者	院生・教職員	学部生
貸 出 冊 数	12冊	7冊
貸 出 期 間	平成 24 年 7 月 7 日(土) ～平成 24 年 9 月 5 日(水)	平成 24 年 7 月 21 日(土) ～平成 24 年 9 月 19 日(水)
返 却 期 限 日	平成 24 年 10 月 4 日(木) ※前期卒業・修了予定者は 平成24年9月10日(月) となります。	

※ 視聴覚資料は除きます。

※ 書庫内図書は別途長期貸出の対象となります。(次項参照)

・・・・・・図書館リクエストウィークを実施中です！・・・・・・

附属図書館では平成 24 年 7 月 17 日(火)から 8 月 10 日(金)にかけて、特別リクエストを受付します。「読んでみたいな」と思う本をどんどんリクエストしてください。1 人何点でも、どんな本でもリクエストできます。

受付期間：平成 24 年 7 月 17 日(火)～8 月 10 日(金)

申込方法：専用用紙に記入して、① ②のいずれかの方法をご利用ください

①図書館のリクエストボックスへ

②メール添付で送信 toshokon@kyokyo-u.ac.jp

※学内アドレスからの発信に限ります。

\*専用用紙は 図書館で配布 または図書館ホームページ(下記)よりダウンロードできます。必ず専用用紙に記入の上お申し込みください。

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/event/other-events/2012/request-week2012.html>



・・・・・・製本中の雑誌について・・・・・・

現在製本作業のため、2011 年発行分を中心に、一部の雑誌巻号を利用することができません。製本作業終了予定は 8 月中旬頃です。

また、製本後は書庫に配架しますが、9 月 1 日(土)以降は書庫の閉鎖に伴い利用することができません。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

製本対象リストを図書館ホームページ(下記)に掲載しております。

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/information/2012/binding/binding2.html>

・・・・・・除却図書の無償譲渡について・・・・・・

図書館では、館内の狭隘化のため書庫内の重複等図書の除却をいたしました。図書館では不用としたものですが、十分使用に耐えうるものも存在しております。有効活用を図るため、希望者に譲渡をいたします。ぜひ一度ご覧ください。

譲渡対象：本学教職員・学生、一般の方

実施期間：7 月 24 日(火)～8 月 10 日(金) 開館時間中

実施場所：附属図書館 北館 2 階視聴覚室

今回の執筆者

小林 稔 (教育支援センター 准教授)

教員属性、研修参加状況と教師の自己効力感及び教職に関する認知との関連  
: 沖縄県島尻地区の小・中学校教員を対象として

小林 稔・南部 昌敏・金城 勲・浦野 弘・三橋 功一・井上 久祥・我那覇 ゆりか  
京都教育大学紀要. 2012, No.120, pp.57-68.

※共著者の所属は紀要本文を参照

近年、国内外を問わず教師の自己成長に関する研究が盛んに行われています。今年の5月に中央教育審議会が、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」を報告しましたが、その中においても、教員集団が自発的に学び合い、高め合うことで、教育実践力の向上につなげようと、校内研修や自主研修の活性化の方向性が示されました。以前、教員養成に関する調査でアメリカに行った時に、「日本の先生は、校内研修に参加すると、どのくらい給与が増えるのか?」といったむこうの先生からの質問があり、愕然とした記憶があります。周知の通り、日本の先生は職務の一つとして、あるいは、自発的に自己成長を図ろうと、さまざまな「研修」に参加する文化を有してきました。このわが国の教師文化は世界に誇れるもので、今後も大切にされるべきものと思っています。

さて、今回の私の研究ですが、質の高い教育実践力を有する教員はどのような教員なのか。あるいはそれを獲得する効果的な研修方法は如何にあるべきかを明らかにするため、量的な手法で研究を進めました。まずもって、「質の高い教育実践力」を量的にどのように規定するのか(質の高い教育実践力とは何か?)ということは大きな課題でしたが、これについては先行研究を参考に「教師効力感と教職に関する認知」から検討することにしました。紙幅の関係で研究結果だけ述べますと、「教師としての力量」を身に付ける第一は、経験です。他にも、上下関係をあまり気にせず、積極的に発言できるワークショップ型で校内研修を実施したりすることも有効だと判断されました。探索的な研究ですので、調べようとした中では、今回、このような結果になったというだけで、教師の教育実践力向上の解明のためには、他にもいろいろな仮説を立て調査を継続していくことが重要だと考えられます。

本タイトルの論文は京都教育大学紀要 120号に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

●開館日程●

※8月13日～15日は夏季一斉休業のため休館

※9月11日はシステムメンテナンスのため休館

カレンダーの凡例

日付	9:00~21:00
○	
日付	9:00~17:00
△	
日付	休館日
×	

平成24年 8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
			○	○	○	×
5	6	7	8	9	10	11
×	△	△	△	△	△	×
12	13	14	15	16	17	18
×	×	×	×	△	△	×
19	20	21	22	23	24	25
×	△	△	△	△	△	×
26	27	28	29	30	31	
×	△	△	△	△	△	

平成24年 9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
						△
2	3	4	5	6	7	8
×	○	○	○	○	○	△
9	10	11	12	13	14	15
×	○	×	○	○	○	△
16	17	18	19	20	21	22
×	×	○	○	○	○	×
23	24	25	26	27	28	29
×	○	○	○	○	○	△
30						
×						

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード→)

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>



京教図書館 News No. 143(2012年8月号)

発行日:平成24年8月2日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp